

市民フォト

# 鹿児島

No.6

●昭和56年9月1日発行

土をこねてロクロをまわす。指の間から生き物のように粘土が盛り上がって花びんになりました。窯から出す日が楽しみです。（人物はミス鹿児島の田口栄子さん、中央公民館高齢者陶芸講座の中村敬一郎先生と受講生のみなさん）



# 私の作品



## もくじ

### 私の作品

特集・がんばれ鹿児島っ子 ..... 3

ガキ大将やあ〜い ..... 4~5

いま、学校で ..... 6~7

遠泳に挑む子ら ..... 8

気は優しくて力持ち ..... 9

人物登場(野中達郎さん) ..... 10~11

ぼくらの施設めぐり(河頭浄水場) ..... 12~15

飛んで20年(上町吉野) ..... 16~17

市民のひろば ..... 18~20

奥様(こんにちは佐土原通恵さん) ..... 21

あなたのフォトサロン

鳴池ニュータウン ..... 22~23

六月灯 ..... 24~25

わたしの散歩道(西千石町・平之町) ..... 26~27

カメラトピックス ..... 28~29

あの店この店(中茶屋) ..... 30

市立美術館(地蔵尊) ..... 31

## お父さんの仕事

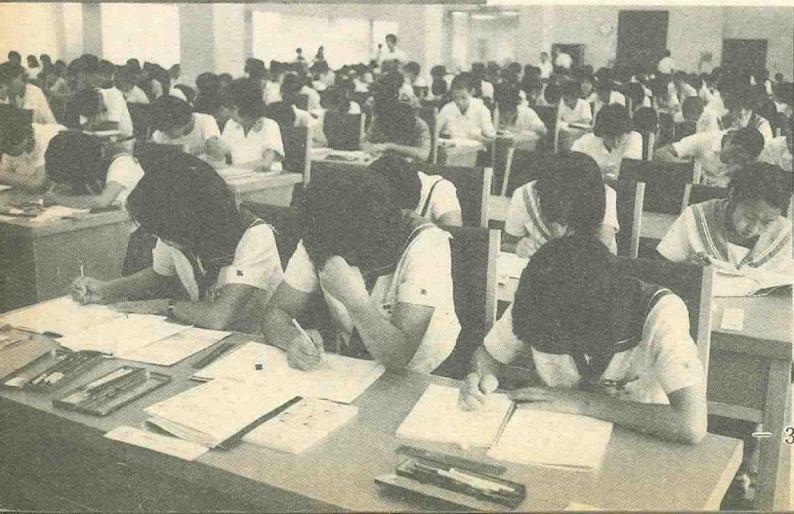
西田小学校四年 新山あや子

私の父は医者です。父は仕事熱

ます。そんな父を尊敬しています。

心で、医者という仕事に命をかけ  
ています。かん者さんの容たいが

この絵は、父が、かん者さんを  
しん察している場面の絵です。



# がんばれ鹿児島っ子

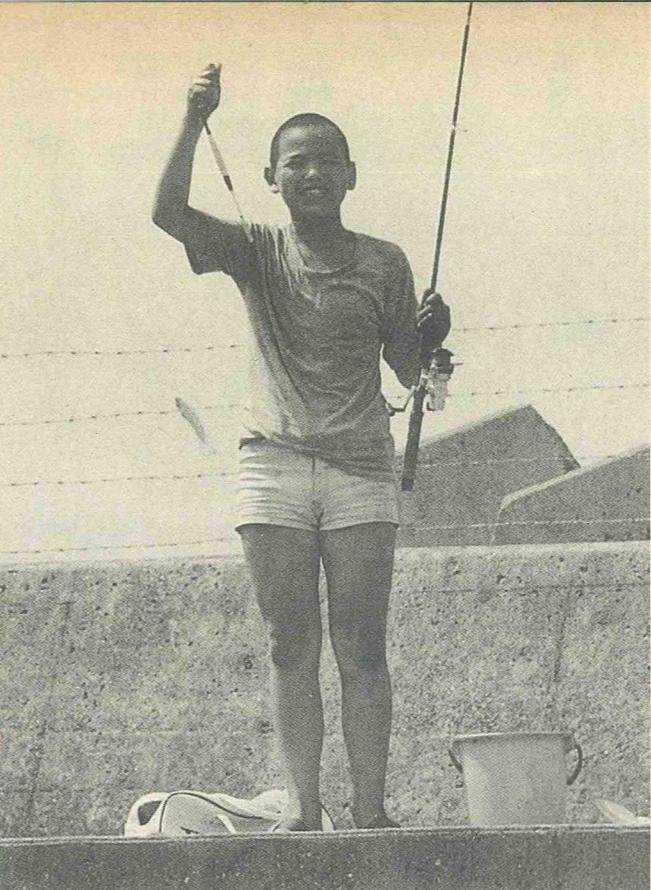
子どもが「遊ばなくなつた」とか、「遊びが下手になつた」といわれ、今日では「遊ばず、学ばず、手伝わざ」の「三はず」主義の時代といわれるほどになつてきています。

また、最近目立つ、からだのおかしさとして、小学校では「背中ぐにや」、中学校では「朝礼でバ

タン」、高校では「腰痛」が一位を占めるという報告があります。

そういえば、鹿児島市内でも朝登校中の児童が信号待ちの交差点で、道端にべったりと座り込んでいるのを見かけました。そこで、子ども達の近況をレポートしてみました。





# ガキ大将やあゝい

子ども達が遊び下手になつたと思われる場面に出会つたのは、団地の中の比較的車の通らない道路

百六十人に遊びについてアンケートをしました。(複数回答による)  
平日に下校後、子どもが遊んで

		いの場所は
道路	自分の家	
公園	友達の家	
空地(はらっぱ)	家の近所	
五 %	四四 %	男子
五二 %	三三 %	
六 %	一九 %	
二九 %	二八 %	女子
〇 %	三八 %	
	六三 %	

式野球のボールで遊んでいたのであります。案の定、打ったボールが民家の玄関先に飛んでいて、お定まりのおじいさんが出て来て……。物がなかつたからでしょうか、遊び上手だったのでしょうか。以前だと、狭い道では、それなりの遊びを工夫していました。野球にしてもゴムまりで三角ベース、人が通るときは「タイム」と言いまして。バットも竹や板きれ、でなけた。バットも竹や板きれ、でなければ、手で打つていました。

昔から路地裏でしていた子どもたちの遊び、かんけり、石けり、鬼ごっこ、馬のり、かくれんぼ、ゴムとび、おはじきなどの遊びをあまり見かけなくなりました。年齢の違う子ども達が集団となつて、野遊びや川遊びをしていました。そして、危いこと、ちよつびり悪いこともやって、なかで威張つてたガキ大将もいなくなりました。

ており、女の子は「マンガ」の六〇%に統いて、「ゲーム遊び」、「テレビ」、「読書」(三六%)となつてゐる。

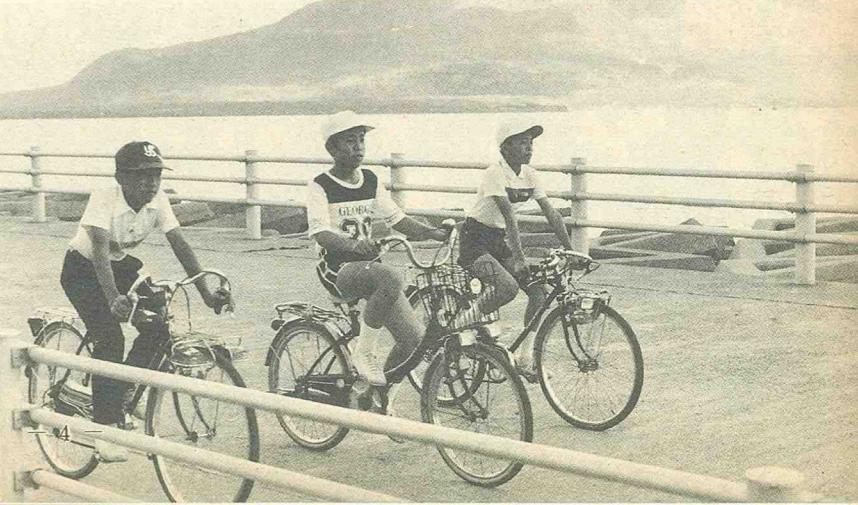
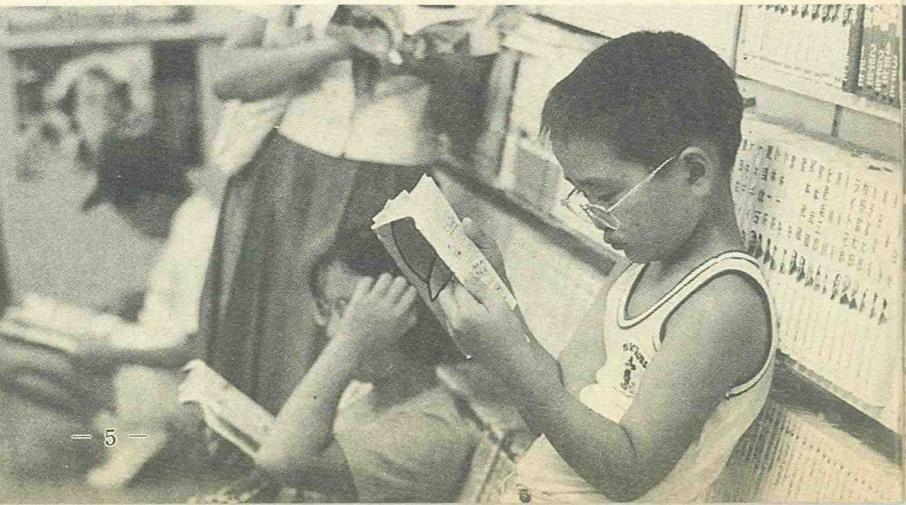
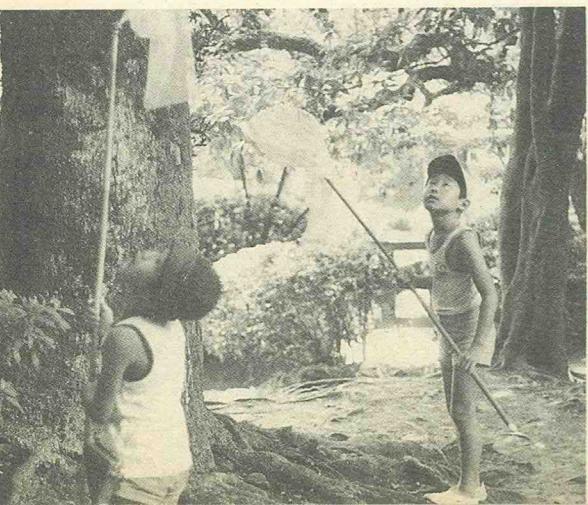
学習塾に通っている、と答えた  
子は男の子四八%、女の子四九%。  
男の子は週二・七回、女の子は二  
回通い都合の子と変わらない。教

強しているが、女の子の場合、英語を学ぶものが目立っている。けいごことをしている子どもは男の子三三%、女の子五八%。学

けいことだけの子も多い。そして、男の子は剣道や水泳など、体をきたえることであるのに対し、女の子は、ピアノや習字と趣味に興するものになつて、いる。

テレビの視聴時間をみると、

子ども達は何をしているときが  
楽しいのか質問してみると、「友達  
しているとき」、「マンガの本を見て



# いま、学校で

総理府が発表した青少年白書によると、「最近、子ども達の中で病気とは言えないまでも、いろいろ気になる身体や動作の異常」が年々増えてきているということです。

最も多いのは、小学校では「椅子に坐っている時、背もたれに寄りかかったり、ほお杖をついたり、じっとしておれず、ぐにやぐにやになる」(四四%)、中学校では「朝礼の時などにうずくまつたり、倒れたことがある」(四三%)です。

鹿児島の子どもの体位について調べてみました。小学校六年生の体格を全国と県の平均と比べると

座高	胸囲	体重	身長	
76.6 (78.3)	69.3 (70.2)	36.0 (37.5)	142.7 (145.0)	全国
76.1 (78.1)	68.6 (69.6)	34.8 (36.6)	141.2 (143.9)	鹿県
76.5 (78.6)	69.0 (69.7)	35.4 (37.1)	142.0 (144.6)	鹿市

※( )内は女子

この数字でもわかるように、体格は県平均が全国平均を下回るのに対し、市平均は同等の数値となる

なかでも、身長は昭和三十三年に一三五cmであったのが、五十三年には一四二cmと七cmも伸びています。これは、平均的な今の五年生が二十年前の六六年生だったことになります。

子ども達の体位を見る今一つのデータとしては、体力と運動能力があります。

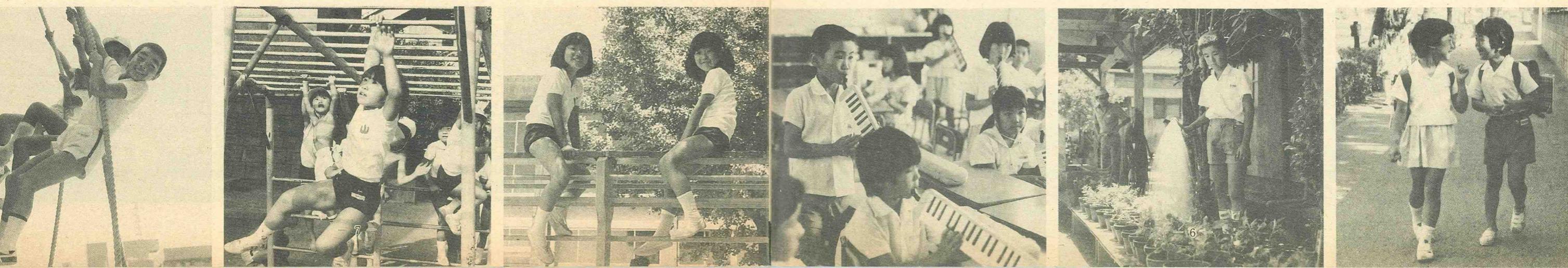
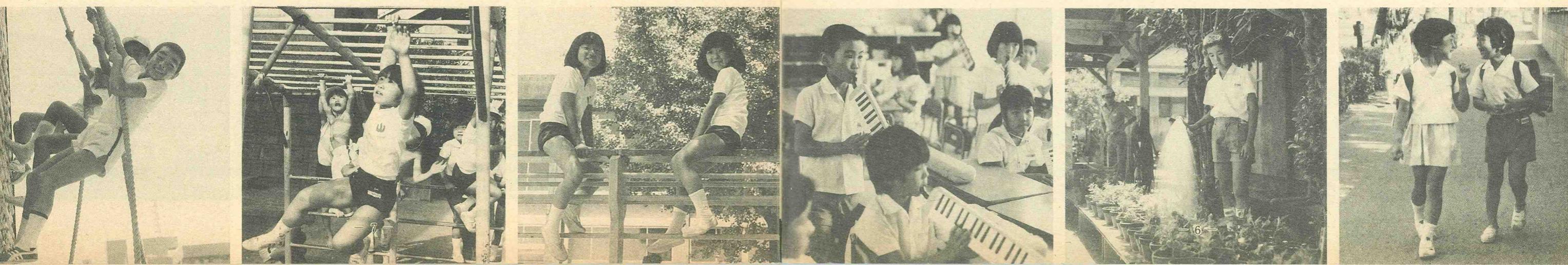
運動能力を市内校の六年生についてみると、五十歳走八・八秒(女子九秒)、走り幅とび三三二・四cm(女子二九六・六cm)、ソフトボーラ投げ三五・一m(女子一九・八m)などで、男子のソフトボール投げとが、ジグザグドリブル、連続さかあがり、走り幅とびは男女とも、女子のソフトボール投げは県、全国平均を下回っています。

体力診断は男子の背筋力、男女の垂直とびで県、全国平均を上回

るが、反復横とび、握力、伏臥上体そらしは男女とも県、全国平均を下回っています。

体力、運動能力調査の結果を市内校の児童について分析してみると、全体的に向上のあとがみられます。特に、背筋力においては、男女とも前年度に比べ、その伸びがみられます。しかし、共通して劣っている体力要素として、敏しよう性や柔軟性があげられます。丈夫な子に育てようと、市立山下小学校では、十二年前から毎週授業のはじまる前に約十分間、男の子は上半身裸で、校庭をぐるぐる一団となつて八周するうずまき運動を続けています。

校長の上森秋義先生は、「できるだけ裸でするようにと指導しているのですが、冬場は低学年が少なくなります。それでも、五、六年生になると多くの児童が裸になりますから、鍛錬の成果だと思っています。それと、朝礼を長くしても倒れる子はないですね。ケガやかぜによる発熱、心臓の弱い子など、見学をするものの数が把握できましてね、子ども達の健康状態もよくわかります。



本校の児童は総合的な体力はあると思うのですが、町の子の特徴ですか、部分的な運動能力に弱いところがあります。郊外の子どもはたくましいですからね。だから市街中心地区の子どもも、その子らに負けないよう鍛えなければいけないと思つてます」とのこと。今回の取材で気がついたのが、日陰や冷房の中で遊ばなくなりました。過度の冷暖房は子どもを弱くします。

人間は生まれながらにして、四季の変化に耐えるための体温調節機能をもっています。生まれたときは未完成なので、かぜをひきやすいうわけですが、暑さ、寒さの刺激を受けながら、だんだんと完成に近づき、かぜに負けない抵抗力がつくのです。必要以上に冷暖房が進まず、あるいは必要がなくなつて退行現象を起こし、抵抗力が弱くなる心配があります。夏の暑さのなかで裸で冷水摩擦をすると水遊びをして機能の発達を強化する生活の方が、子どもにとっては大きなプラスなのです。

# 遠泳に挑む子ら

対岸の桜島から市内吉野町の磯海水浴場までは直線にして四キロ。松原小学校の児童百二十二人が遠泳に挑戦しました。松原小学校の錦江湾横断遠泳は今年で十六回目を数えます。

七月二十五日正午すぎ、時折にわか雨の降る中を出発しました。二列に並んで泳ぐ子どもたちを父兄の乗り組む二十八隻の伴走船が見守ります。途中、潮の流れを横切るために、一行はゴールに向かって「く」の字型のコースをとります。

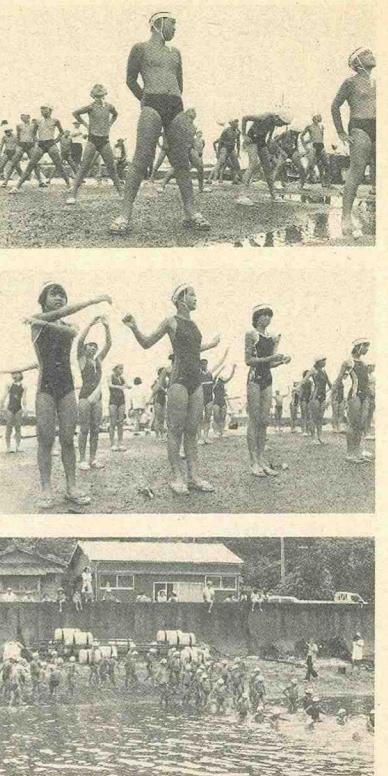
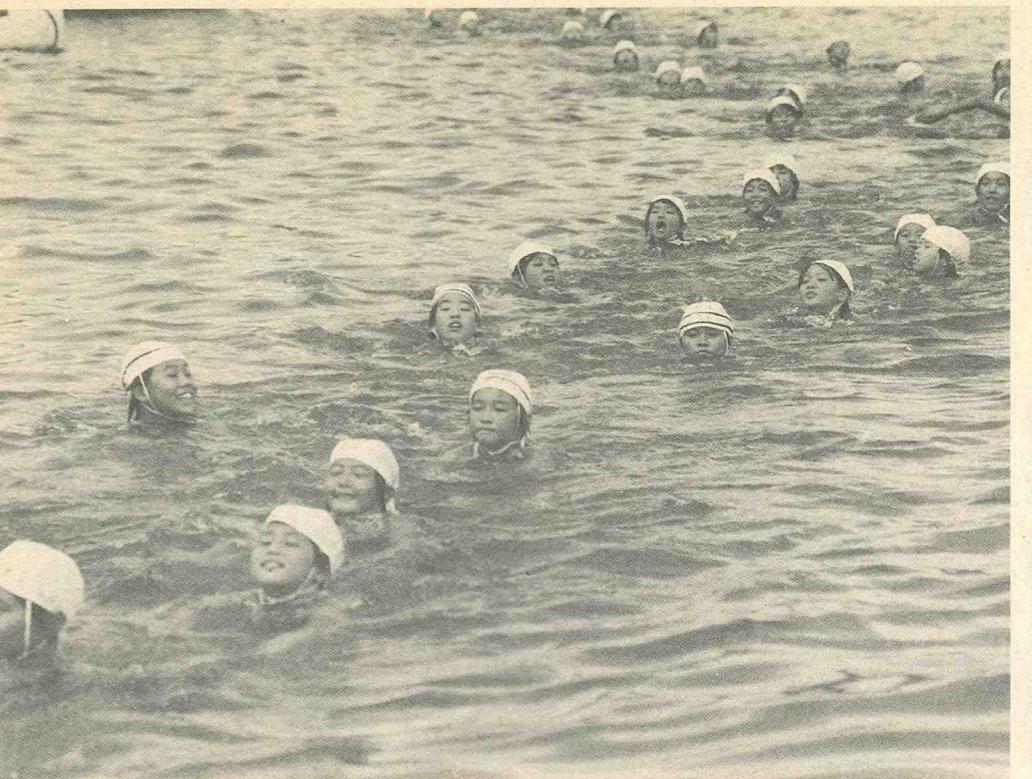
千五百㍍地点あたり、先導船で

打ち鳴らされる太鼓に合わせて、「エンヤーコーラ！」の掛け声も勇ましく、対岸めざしてがんばります。父兄の声援に笑顔で応える子、潮水を飲んで表情の陥しい子も。

出発から一時間四十分、予定よ

り二十分も早く、女子六十四人を含む全員が泳ぎきりました。出迎えの人たちの拍手の中を、次々に陸に上がってくる子どもたち。まつ黒に陽焼けした顔に白い歯がこぼれます。

笑顔の中に、ひとつのこと成しえた自信を見た思いがしました。



## 気は優しくて力持ち

### 健康優良児・荻田晃久くん

荻田晃久くん十二歳。草牟田小

学校の六年生で、男子の本年度鹿児島市健康優良児に選ばれました。身長一六〇㌢、体重五十三キログラム。

食べ物では牛肉がきらいだった

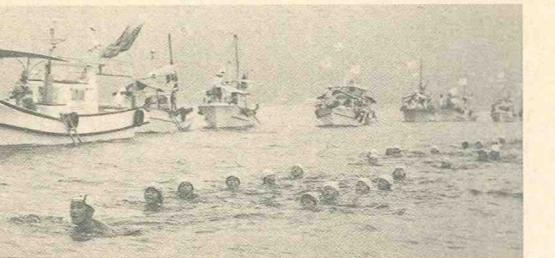
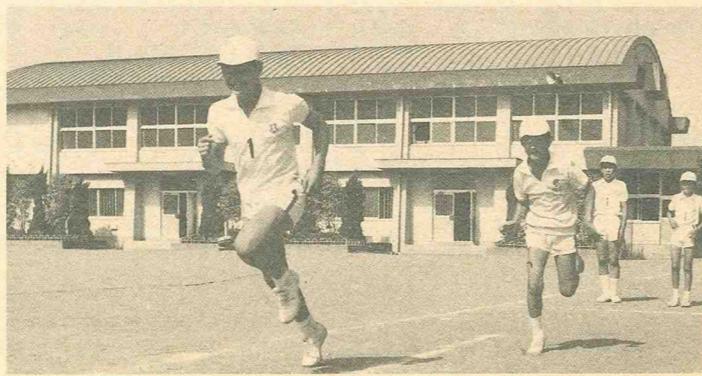
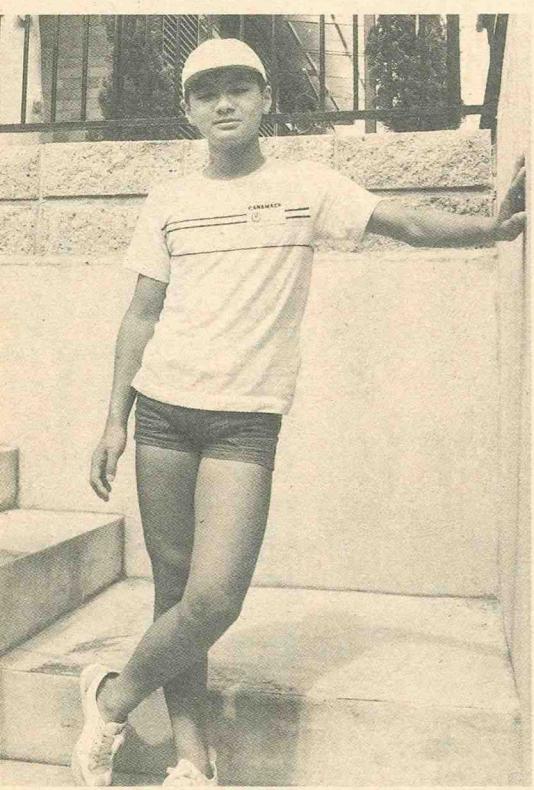
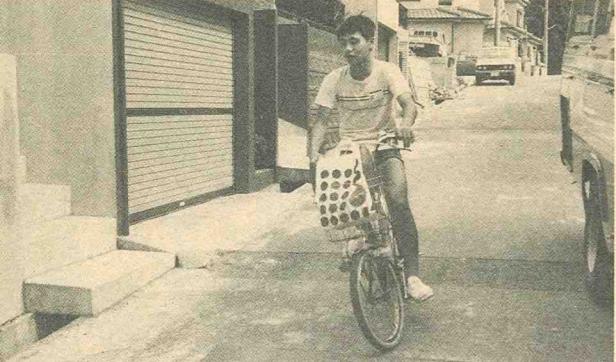
が、五年生の家庭科の時に勉強したタンパク質の栄養の話から、今まで大好きなものの一つになつた。好ききらいを自分で直していくところがあり、朝は小魚と生人参を欠かさない。

朝は、起こされなくても一人で六時には起きる。垂直とびを朝夕必ず実行し、汗を流した後の夕食

がことのほかおいしいという。

好きな学科は体育、社会。不得手は図画、音楽とのこと。なかでも、陸上には自信を持っていて、百㍍を十三秒五で走る。

たまには友だちとけんかもするが、晃久くんが悪ければ、謝つきなさいと叱る、ちょっと恐いお母さん。「自分の行動に責任を持つこと、皆に好かれる人であれば…。小さい時から母さん思いの子でしたが、近頃、少し理屈っぽくなりました」と苦笑いするお母さん。



# 人物登場

“選手は常に、自分のベスト以上のものを目指す”。来夏の高校総体には最高の競技運営で応えたい。

心身ともに成長期の生徒たちにかける情熱。  
かつての名長距離ランナーは、思うように記録が伸びないとすぐ競技生活を放棄する子らを惜しむ。栄光の表彰台に立つ感激を教えたいと。

鹿児島陸上競技協会理事長  
のなか たつろう

曾於郡有明町生まれ。九州一周駅伝や県下一周駅伝の“常連”で、この四月、大島高校から鹿児島中央高校に転任したとたん、鹿児島陸上競技協会理事長に選ばれた。鹿児島市草牟田町在住。五十一歳。

卷之三

卷之三

曾於郡有明町生まれ。九州一周駅伝や県下一周駅伝の“常連”で、この四月、大島高校から鹿児島中央高校に転任したとたん、鹿児島陸上競技協会理事長に選ばれた。鹿児島市草牟田町在住。五十一歳。

のスケジュールは、今、高校総体競技に向けで動いている。

体育教師の野中さんは、これまで

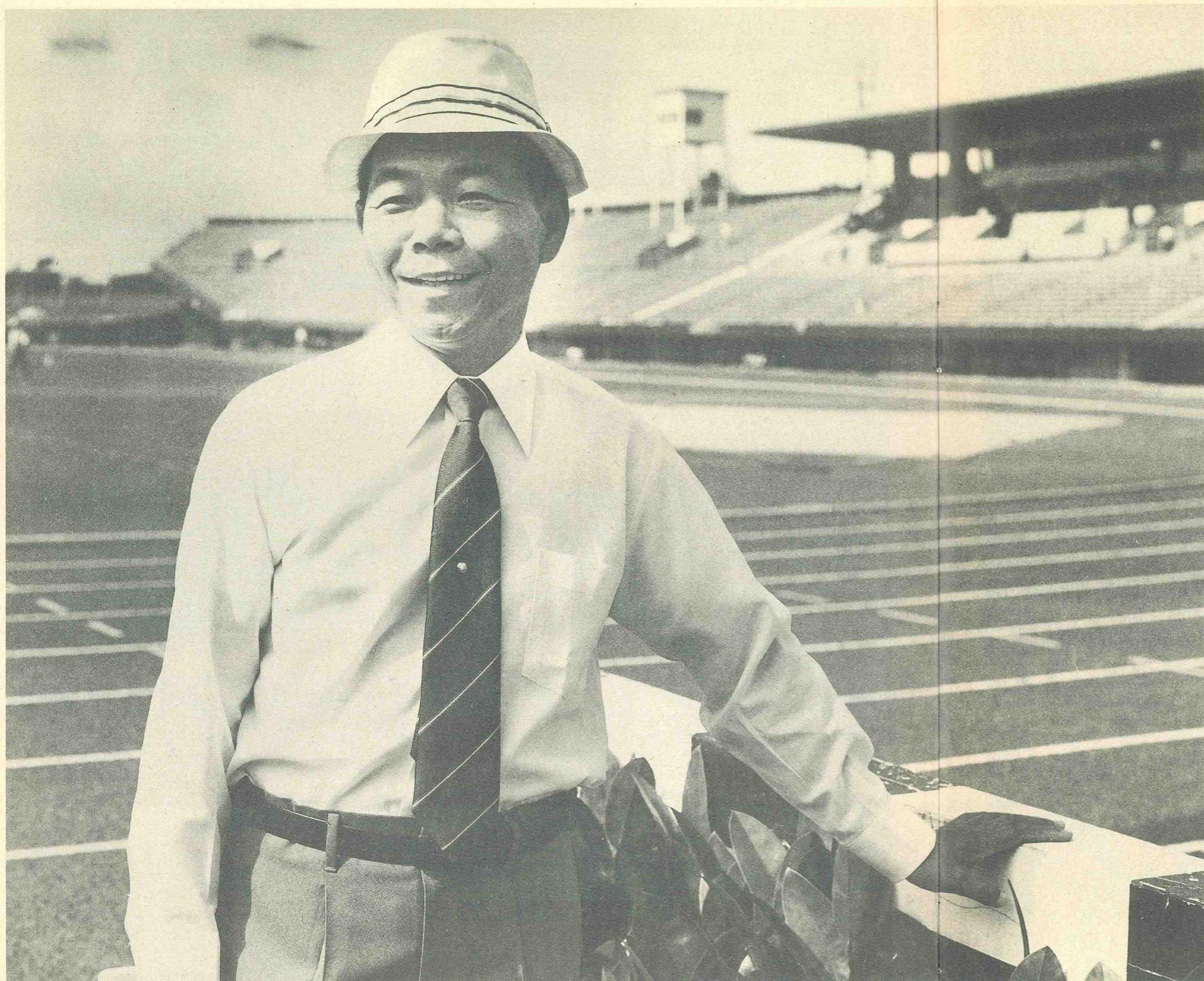
つた、と思うような大会になるよう全力を尽くします」。

は、いかにも野中さんの地味な、  
そして、責任感が強い性格を現わ  
しているようだ。選手強化の話に

で四代、大学教師が務めてきた陸協理事長に選ばれた。高校教師の就任は初めてで任期は二年。四年の太陽国体で副理事長を務めた時の活躍が認められての就任となりう。

「大事な時期に大役を引き受け、身がすくむ思いです。高校総体を成功させることが最大の任務。参加した高校生が鹿児島に来てよか

員と二百五十人の補助員が必要。野中さんは現在、役員や補助員の養成に取り組んでおり、十一月には中央から講師を招き講習会を開く。「よその選手が一番接触するのは役員や補助員。技術も大切だが安心して競技ができるよう温かい心で接するよう、指導したいと思います」。



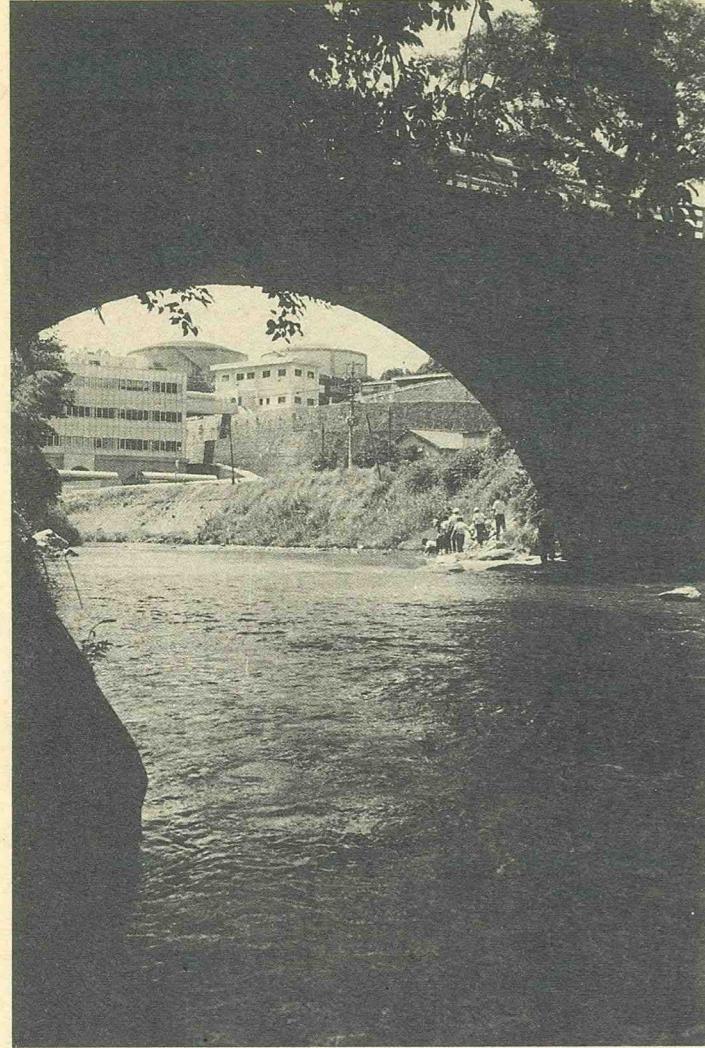
摄影／三井五男

「選手は常に自分のベスト以上のものをを目指さねばならない。来夏の高校総体に出場する選手たちは、戦し、大会では成績にかかわらずやるだけやつたので良かつた、と満足できる状態に持つていってほしい」。

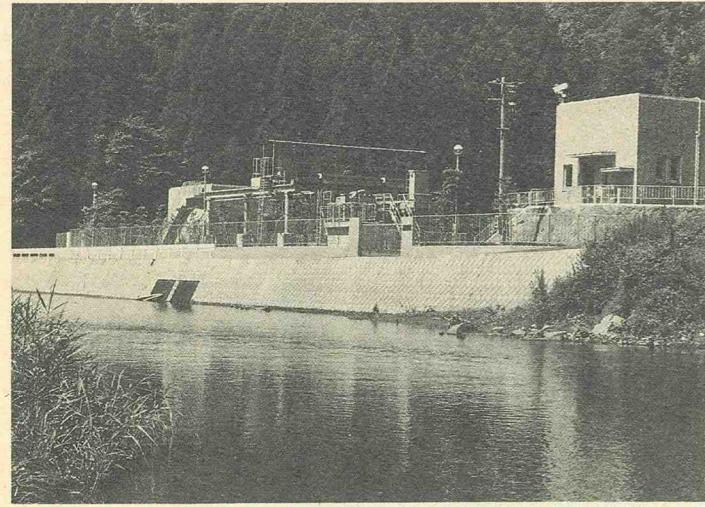
毎日、動きの激しい世界に身を置いているためか、趣味は散歩という。「静かな神社や寺院を一人で歩き、自分自身をゆっくり見つめ直しています」。もの静かで、柔軟な人である。

中時代。校内マラソンや運動会で優勝、体育教師の勧めで走り始めた。終戦直後で、皆、生きるのに精一杯のころだった。両親を早く亡くし、祖母に育てられた野中さんは、学業と農作業手伝いの合間に見つけて、ひたすら走り続けた。志布志高時代には、中、長距離選手として国体にも出場、鹿児島大学在学中は九州学生大会の五種目で三回優勝した。教師になつてからは九州一周駅伝や県下一周駅伝で活躍した。

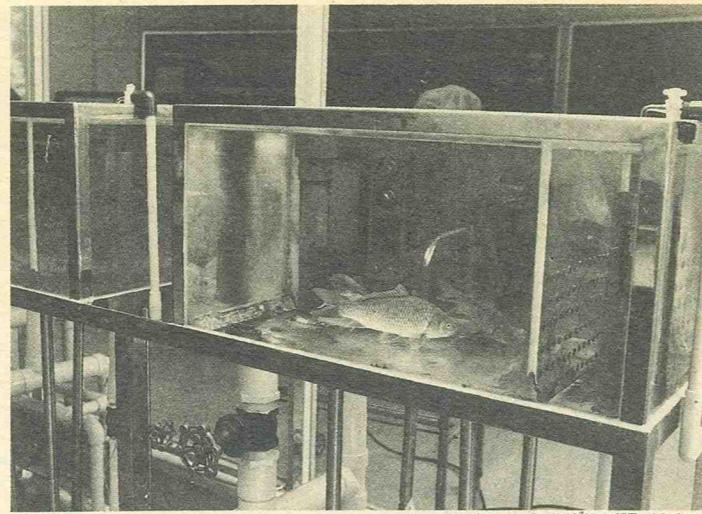
陸上競技との“出会い”は志布志



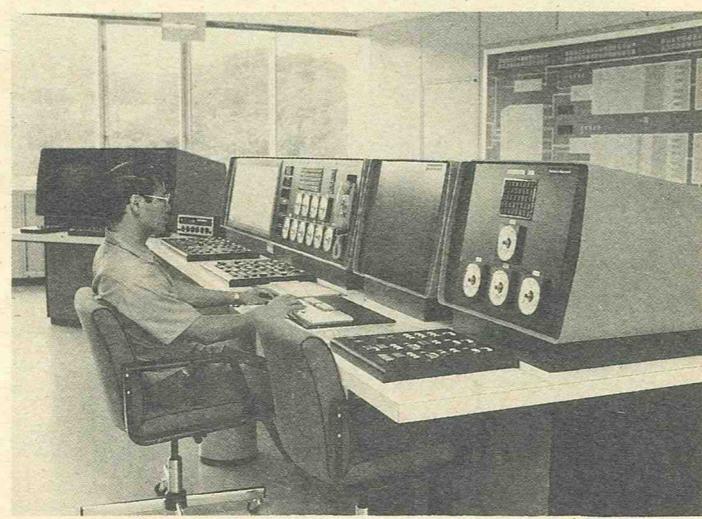
浄水場の近くには大鼓橋がかけられ美しい



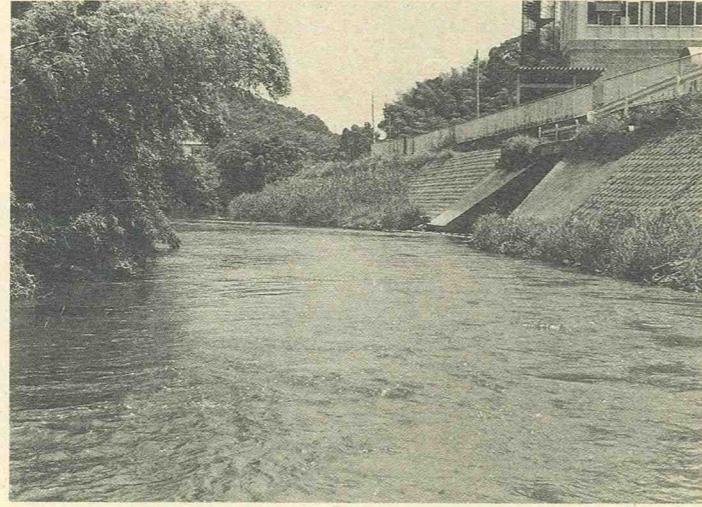
石井取水場からは2万トンの水が取り入れられる



フナやコイを飼って水の状態が調べられる



配水池などコンピュータにより集中管理されている



ここから甲突川の水は取り入れられる

沈める。沈まなかつたゴミは薬を入れかきませ、沈みやすいように大きなかたまりにする。池がたくさん並んでるので変化がよく分かつた。しかし、これでは、まだ飲めない。さらに、急速ろ過池で水をこしてきれいにし、塩素で消毒する。これで、やっと水のできあがりだ。そして、この水は配水池に送られる。

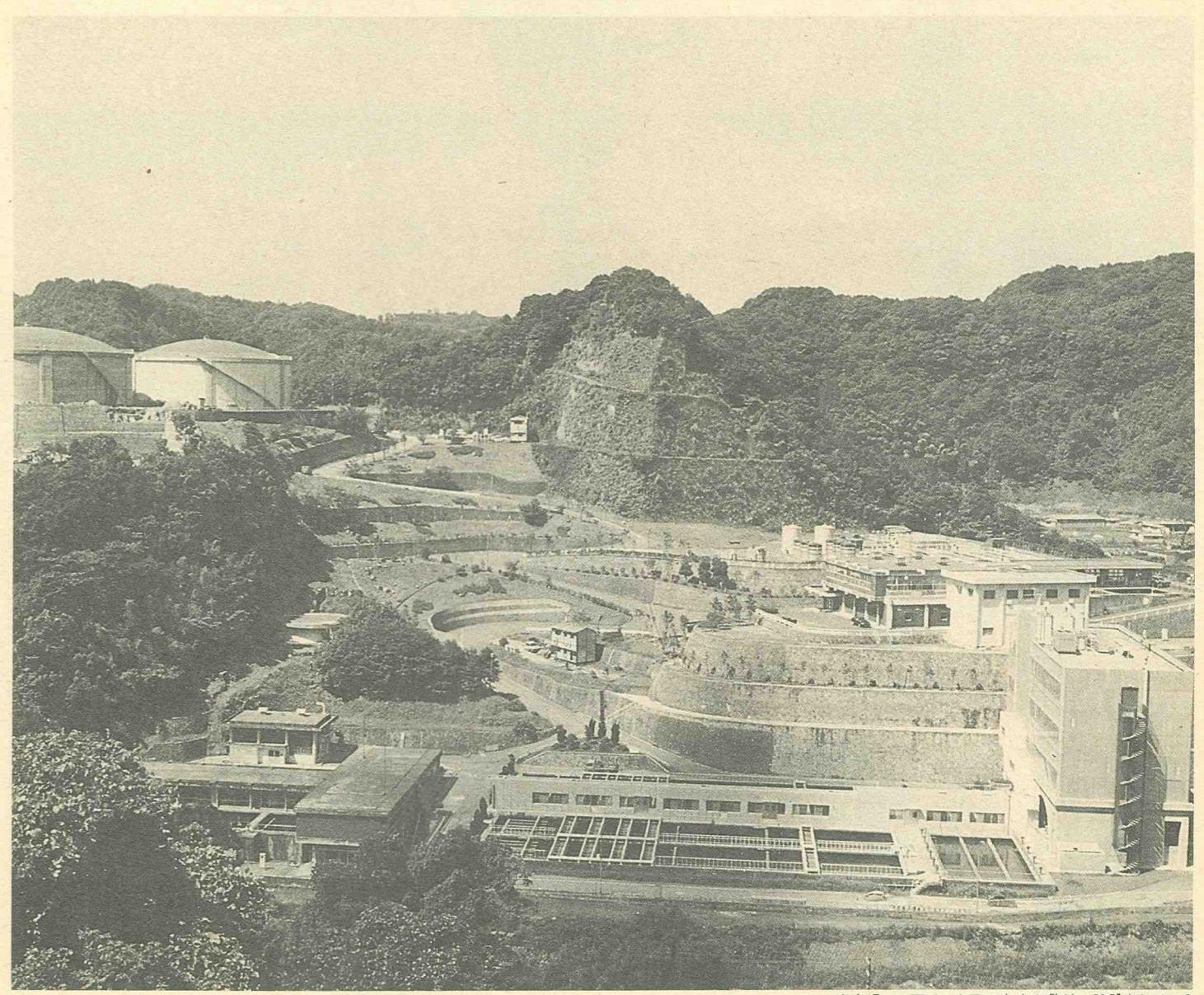
昔は、いちいちせき止めたりしていたそうだが、現在は、コンピューターで調節している。このように施設の管理は機械化されているので、私たちが想像していた以上に人手はいらない。それでも、万一に備え、毎晩二人が交替で管理している。また、そこにはテレビカメラもあり、水の配水状況まで手にとるように分かる。

このように、水は私たち市民が安心して飲めるように、いくつかの過程を経ながらつくられ、一方では、検査も十分行われている。

私たちには、いつも何気なく水を飲んだり、シャワーを浴びたり、水まきをしたりしているが、もつと水のありがたさを知り、大事に使うように努めることにしよう。

## ぼくらの施設めぐり 河頭浄水場

文／井手 章彦・原田 園子(甲南中2年)



浄水場は6万m<sup>3</sup>にも及ぶ広大な敷地に建設されている

市内では一日平均約十六万トンもの水が使用される。これらの水は主に河頭浄水場と滝之神浄水場でつくられる。その水ができるまでの過程を甲南中二年・井手章彦君と原田園子さんに見学してもらつた。

今日は河頭浄水場の見学にきていた。ここは一日九万トンの水を供給するようになったジャンボ浄水場だ。私たちは、まず、川の水が飲料水になるまでのしくみを見学した。

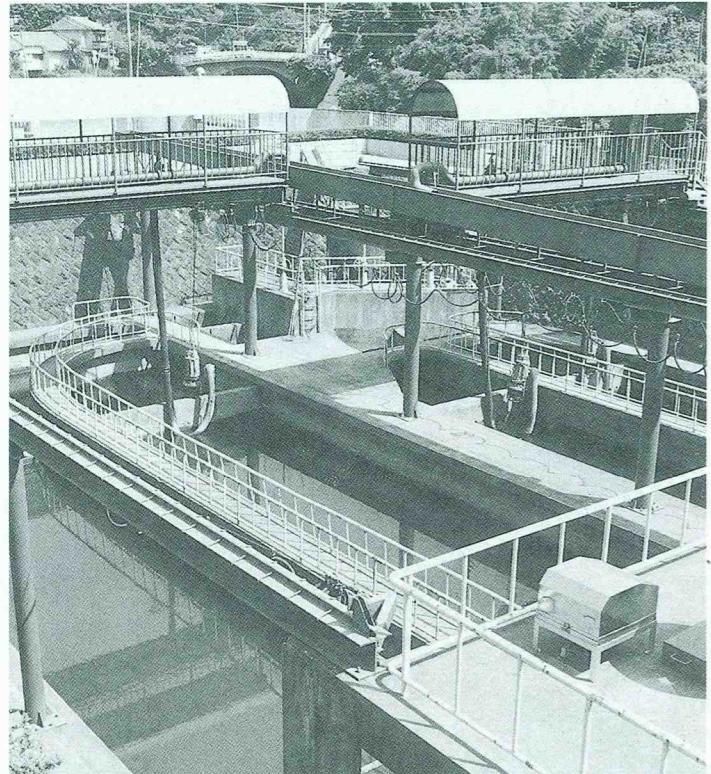
川から流れてきた水は、まず沈砂池にとり入れられ、砂やゴミを



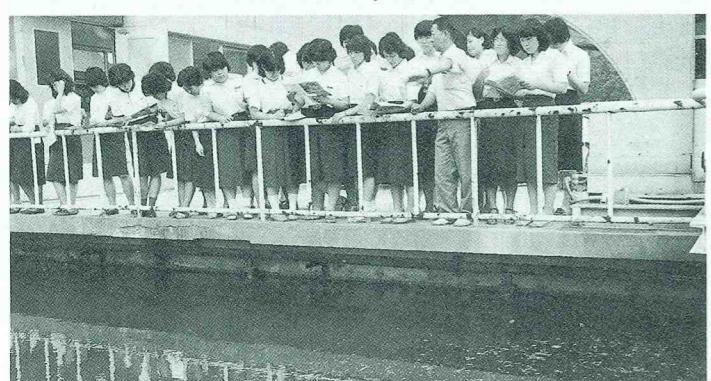
長野場長に説明を受ける井手君と原田さん



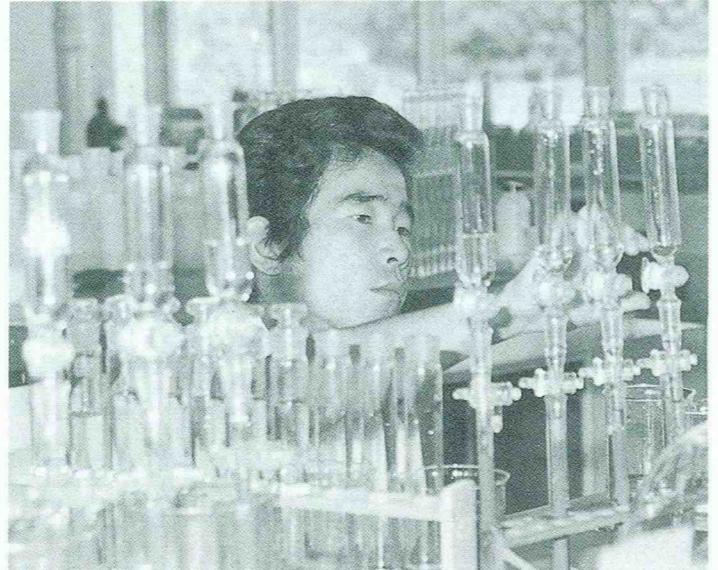
川の水、沈でん池の水など、それぞれの地点の水が検査される



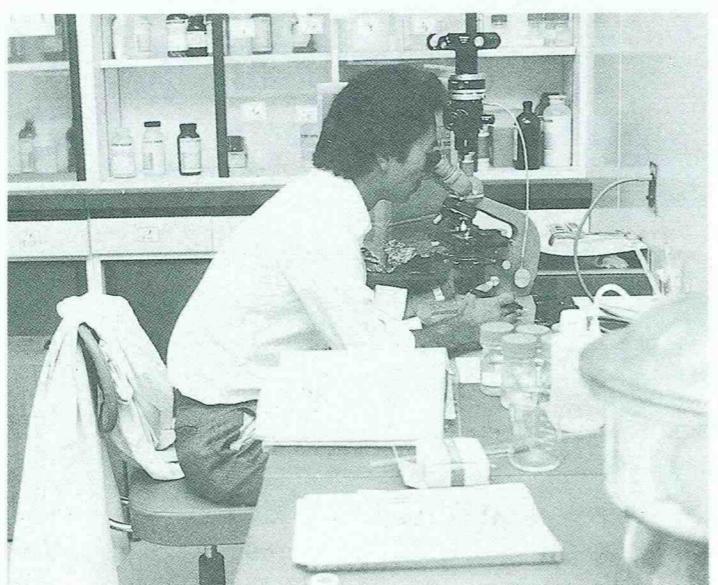
水は取水ポンプで着水井に取り入れられる



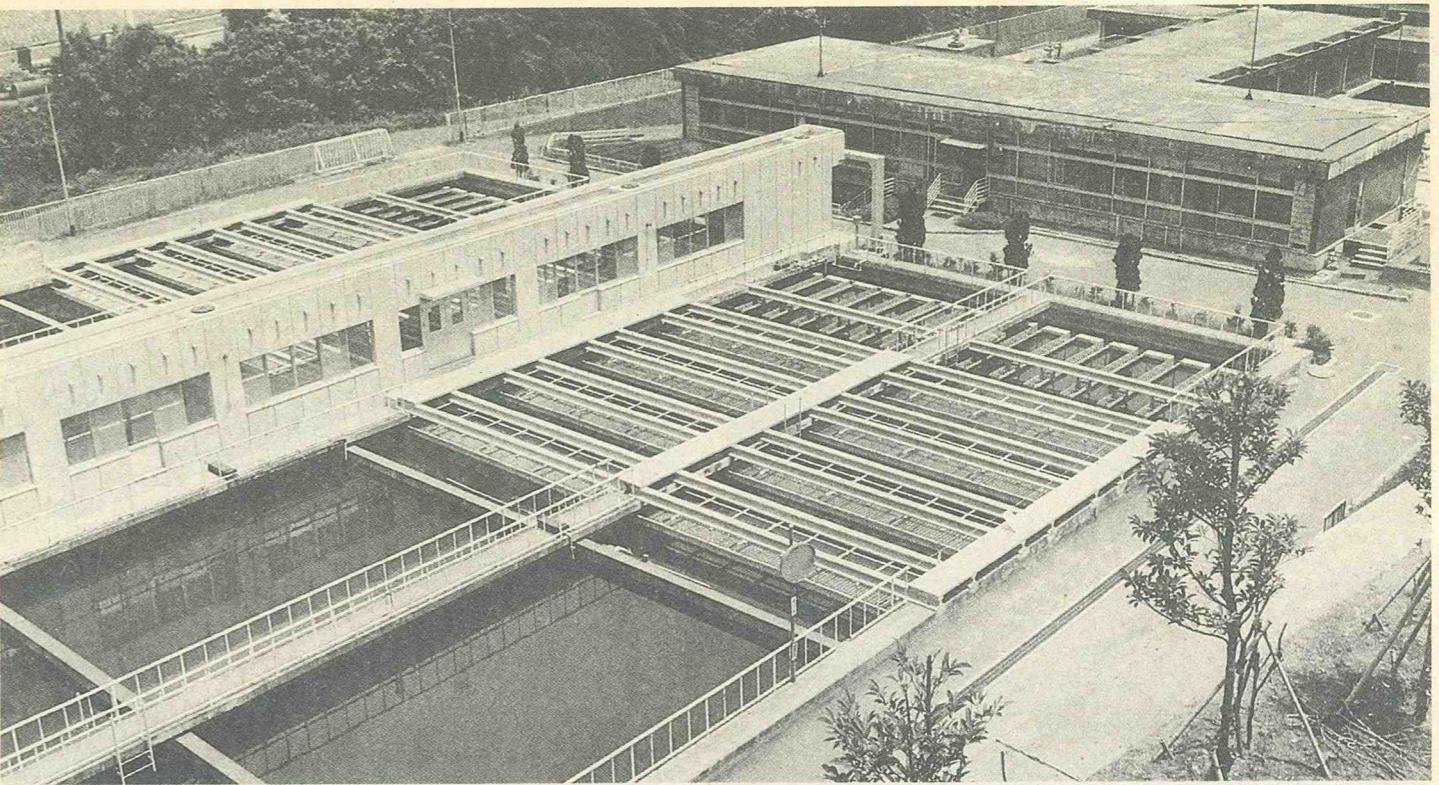
施設見学に訪れる人も多い



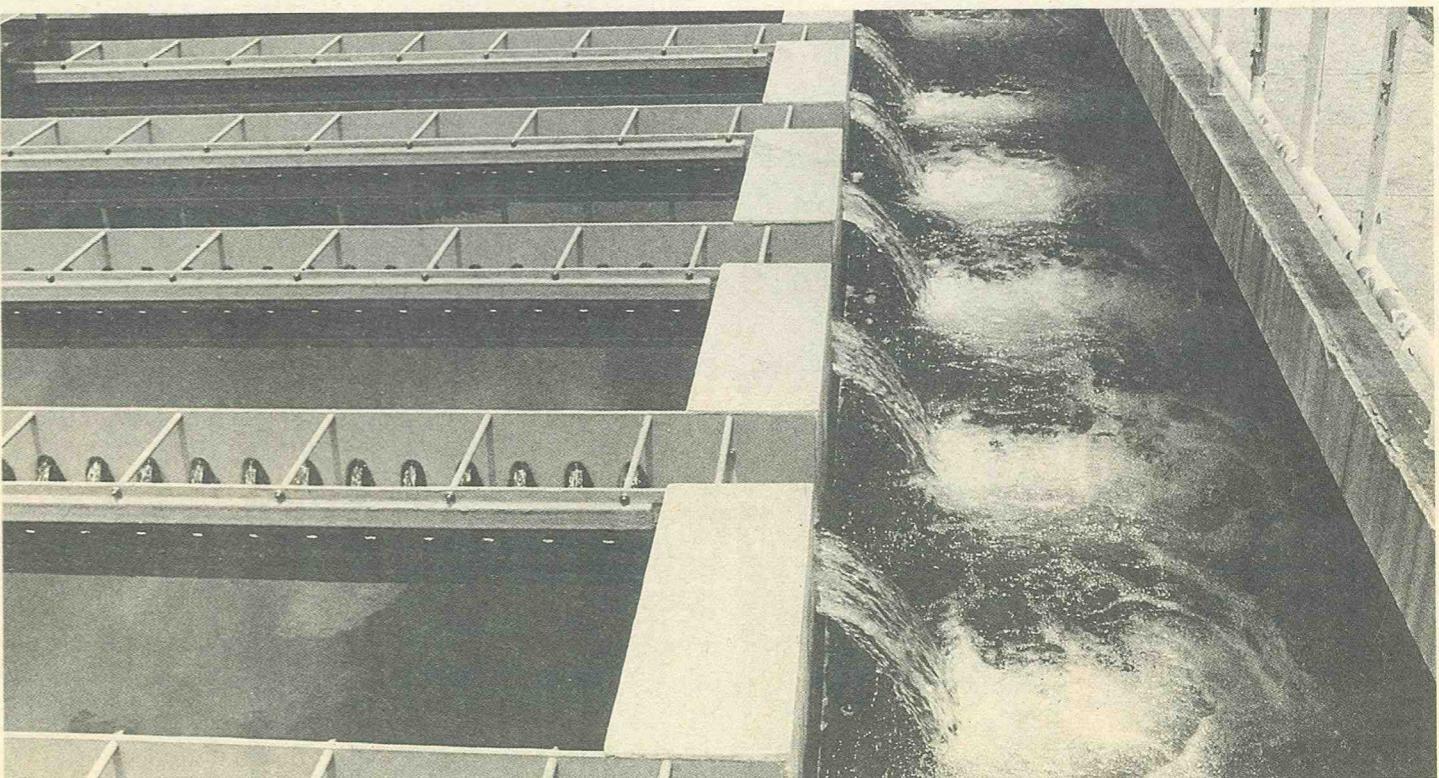
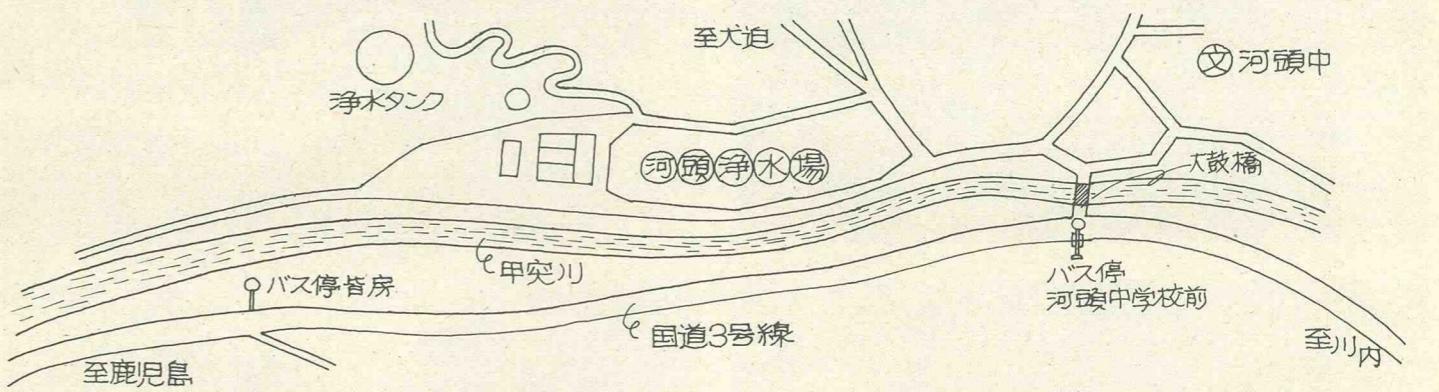
水質試験も念入りに行われる



電子顕微鏡による検査も……



フロック形成池、薬品沈でん池などを経てゴミは取り除かれる



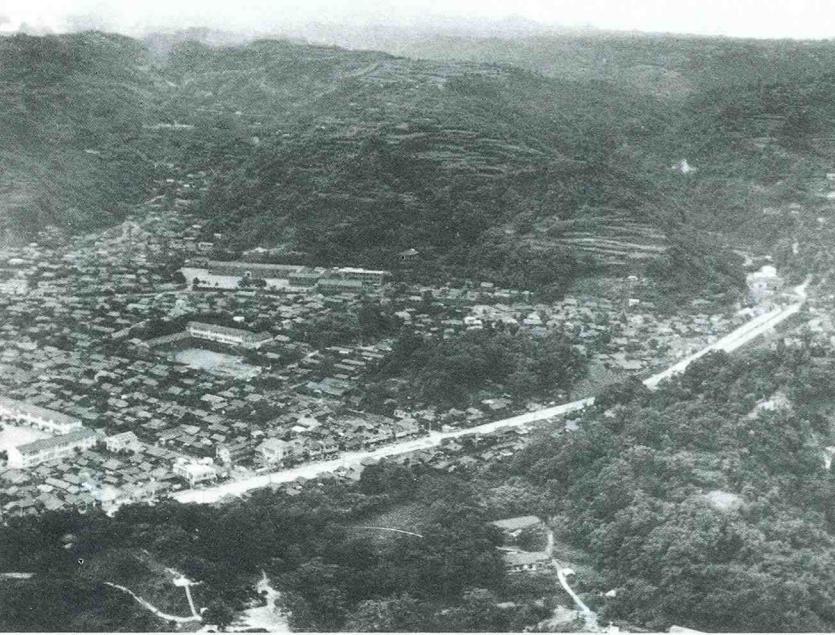
ゴミの入った水もここを出る時はきれいに……

昭和36年

# 飛んで20年

昭和56年

## 空から見た街の表情



上町・吉野

多賀山を海にたどつた磯街道。  
その道のりを短縮した国道十号の  
鳥越トンネルが開通したのは、昭  
和三十三年四月のことでした。

鹿児島発祥の地・上町は静かな  
住宅街のたたずまいを見せ、吉野  
台地は昔ながらに野焼きの煙がた  
なびいています。

その吉野台地に住宅建設ブーム  
を呼んだのは、昭和四十一年に完  
成した天神山、大明ヶ丘の両団地  
です。滝之神浄水場をひと回りし  
て台地へとづく道。鳥越トンネ  
ルをはさむようにして陸橋が架け  
られたのは、昭和四十七年でした。



撮影／水谷  
進

# 市民のひろば



「市民のひろば」は、MBCから放送されます。放送日時は、毎月第三日曜日を除く、日曜日の午前八時から十五分間。ただし、第四日曜日は三十分間放送。

## あいさつ交わし潤いを

「おはようございまあす」と会釈する娘さん。「いらっしゃい」とほほえむお年寄り。朝の街で交わされるあいさつは見てやい」とほほえむお年寄り。朝の街で交わされるあいさつは見てやいる人までほのぼのとした気持ちにしてくれます。

あいさつ運動がはじまって二年半。豊かな暮らしの中で失われつつある心のふれあいについて、ゲストのみなさんと山之口市長が家庭、職場、地域におけるあいさつを話し合いました。

### 出席者(敬称略)

高島 新聞配達の人から田植えの  
お年寄りまで、市民の方々のさまざまなお見舞い、あいさつを最初にご覧いただきましたが、みなさにいかがでしたか。

徳永 とても生き生きとして、いいですね。画面を見ていまして心が和む思いがいたします。

別府 笑顔って本当に美しいものですね。この運動がスタートしたんですけど、やはり、周囲であります意外と少ないのに、びっくりしたこと改めて思い出しています。

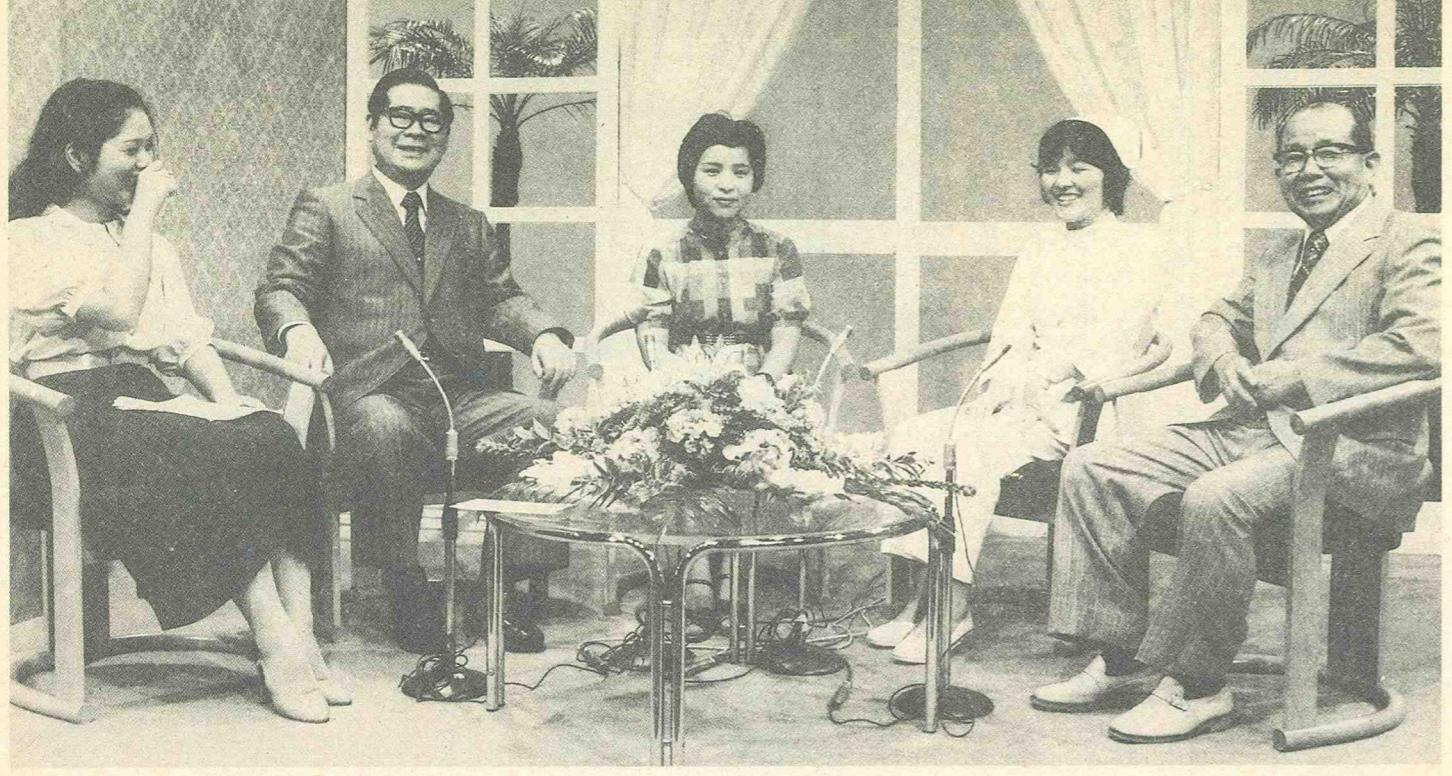


竹之下 私たちの年代の者は気さくに誰とでも「こんにちは、よか天氣ごわんなどなあ」とあいさつをします。

高島 本当に気持のいいものですね。市長さんはいかがでしたか。

市長 あいさつ運動が根づいたと感じを受けますね。あいさつは、人と人のふれあいに親愛を感じました。自然な姿であいさつができることは、いいことですね。

高島 そうですね、何かさわやかな気持になりましたけれども。さて、今日のゲストのお三方がそれ



ぞの立場で、あいさつ運動を実践していらっしゃる様子をファイルを見ながら、話題合っていただきましょう。

市長 徳永さんのお宅はおじいちゃん、おばあちゃんをはじめ三代の方々が一緒に仲良く生活しておられますね。大変、心の温まる気がするんですが、どんな毎日ですか。

徳永 私たち夫婦と子どもだけといふより、やはり、父や母が一緒だといろいろ教わることが多いですね。礼儀とか、しつけ、思いやりということは周囲の者の以心伝心で育つと思っているんですけど。

市長 そうですね。画面を見ていましたと、食事の前にみんなであります。私は、ご家庭のしっかりとたしつけがうらやましく思います。

徳永 ありがとうございます。

市長 最近は物が豊富でしよう。

そして、どこを見てもぜいたくですか、感謝するとか、ありがたいたかいう気持がなくなっていますね。

徳永 そうですね、父も母も健在なんですから、帰ってきた時に「おじ院長が朝礼の時にあいさつ運動や

仕事がスムーズに運ぶようになりました。

高島 職場でのあいさつ運動は、別府さんがお勤めの野上病院に同いました。

市長 別府さんが一生懸命治療に専念しておられる姿を見ていましたが、看護婦さんが沢山いらっしゃいますね。何人ぐらい……。

別府 四十人です。

市長 大世帯ですね。そしてまた、お宅の病院長さんが大変礼儀正しい方でしてね。みなさん方に対しても、患者の方々に対しても、あいさつ運動を強くおっしゃっているのではと思いますが……。

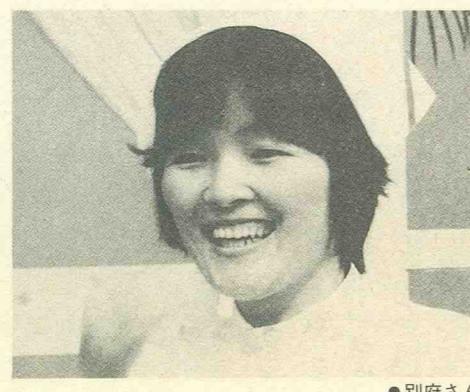
別府 はい。私たちの病院では、院長が朝礼の時にあいさつ運動や

小さな親切運動の実践を自ら提唱され

竹之下 これはですね、地域の子たちが集まつておられます。何の講習会ですか。

高島 続いて、地域におけるあいさつ運動の例を市の武・田上コミュニティセンターで……。

市長 竹之下先生、ずいぶん幅広い人たちが集まつておられます。何の講習会ですか。



●別府さん

市長 あいさつ運動が根づいたと感じますね。あいさつは、人と人のふれあいに親愛を感じました。自然な姿であいさつができるることは、いいことです。この運動を提唱した時、今頃なぜ、役所がこんな運動をと、不思議がつた人たちもありました。しかししながら、思いやりの心が薄れていく風潮が気懸かりでしたからね。次第に、あいさつ運動が軌道にのつっていくのがうれしいですね。

高島 ものですが、最近の若い人はあまりしないと思つてました。しかし、いま見て、よくなつたなとつくづく感じました。自然な姿であいさつができることは、いいことです。この運動を提唱した時、今頃なぜ、役所がこんな運動をと、不思議がつた人たちもありました。しかししながら、思いやりの心が薄れていく風潮が気懸かりでしたからね。次第に、あいさつ運動が軌道にのつていくのがうれしいですね。

市長 あいさつ運動が根づいたと感じますね。あいさつは、人と人のふれあいに親愛を感じました。自然な姿であいさつができることは、いいことです。この運動を提唱した時、今頃なぜ、役所がこんな運動をと、不思議がつた人たちもありました。しかししながら、思いやりの心が薄れていく風潮が気懸かりでしたからね。次第に、あいさつ運動が軌道にのつしていくのがうれしいですね。

高島 そうですね、何かさわやかな気持になりましたけれども。さて、今日のゲストのお三方がそれ



# 奥様こんにちは

デパート服飾専門係長

佐土原通恵さん

「街着や通勤着、鹿児島のファッショングセンスはなかなかなもの。大都會にも劣りません。色彩的には優れていますよ」と嬉しい発言。又「おしゃれとは、その方がより素晴らしい見えるものであつて欲しい」と

本人は明るい色、白や黄色を好みます。でも「フォーマルな場には、控え目で、さりげない装いを」と……。

客層の大部分が三十代～四十代後半。個性的なもの、一点ものを注文もさまざま。気苦労が絶えなく見えてるのも、おしゃれな年代らしく、趣向

と感概深げ。忙しい中、週一回の詩吟と整美体操で心と体のバランス調整と、りっぱなもの。

動物好きで、お料理上手。三人娘(高三、中二、中二)のよき母親。人生の先輩として「将来、子供達も職業婦人として活躍して欲しい」と夢は拡がる。日ごとに変化するこの世界、本物を見極め、細かくアドバイスを下さる、そんな“あつたかい人”との出合いだった。



あなたの

# アサロ+

## 鴨池ユータウン

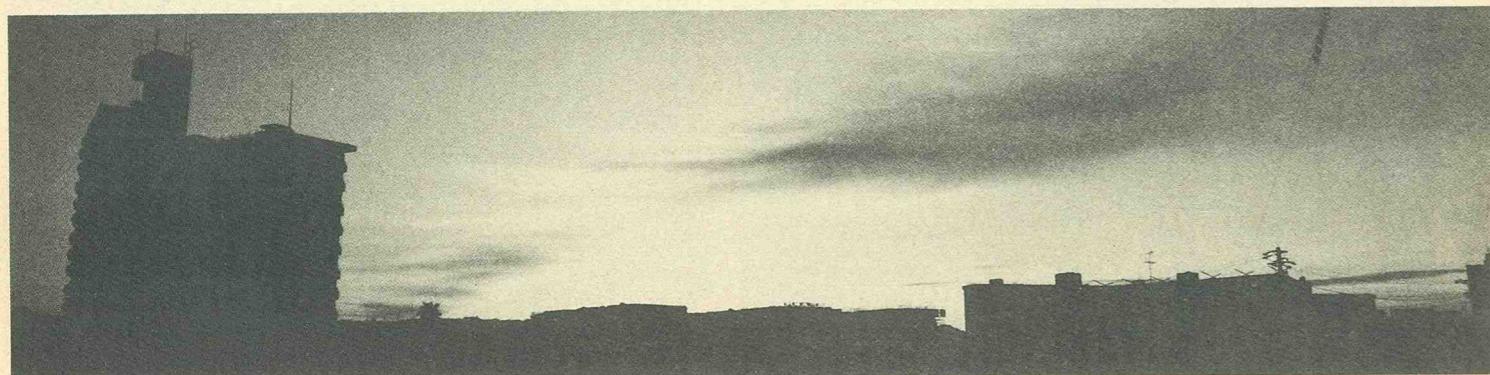
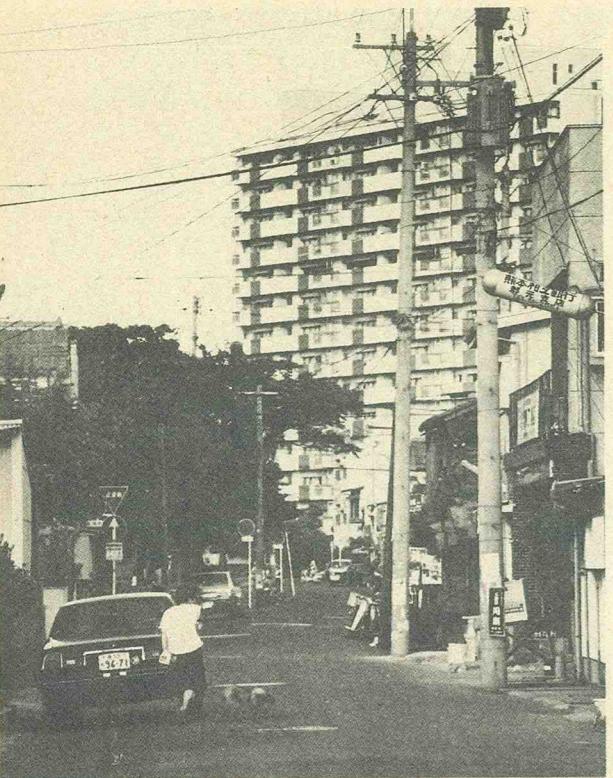
市電・南鹿児島の停留所下には  
松の並木があった。額に白い布を  
巻いた兵隊数人が日本刀をかざし  
て、その松にいどんでいた。

毎年、八月の暑い日照りの続く  
頃になると、その兵隊たちのこと  
が思われる。三十数年経て、私たち  
の日頃の会話のなかに「戦後」と  
いう言葉も消えようとするとき、

“ニュータウン”と呼ばれるこの地  
に新しい営みが実りつつある。海  
の方から吹き通つてくる風、雲間  
差す午後の光の中、共鳴する団ら  
んの声に、新しい夏の思い出を求  
めて辿つた。

写真と文／山本和男

真砂町60-14



あなたの

# みやび



とかく“祭り”というものは、日本人の心をくすぐるものらしい。それが苦しい時代であっても、生きる喜びをしばしあしめるために、永遠と受け継がれてきた愛郷の心理でもあると思う。

古き時代への想いと、いつの日か訪れるであろう豊かな生活への

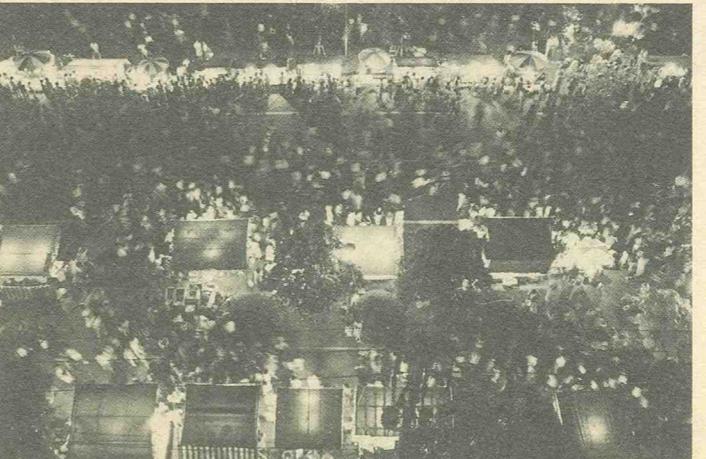
写真と文／松元憲一

五ヶ別府町3821-67

## 六月灯

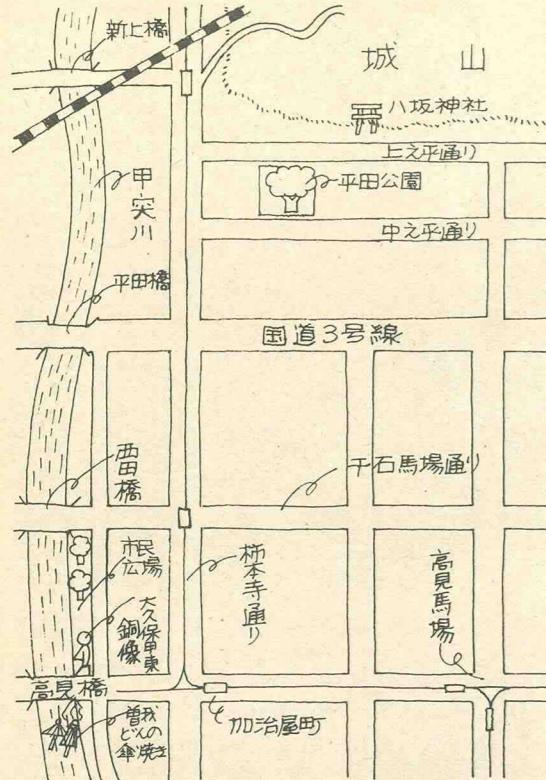
憧れが入り交つた独特の感傷…。

六月灯は、鹿児島に住む人々だけがもち得る喜びであろう。浴衣の子どもは出店の花火選びに熱中し、大人はそれを見て目を細める。「やはり、今は幸せだ……」。その夜は、とてもいい夢が見れそうな気がする。



鹿児島女子高校 MEC 学園と  
レクリエーションとしての日本舞  
踊を普及させる。そして、鹿児島  
の代表的な祭り“おはら祭”で振り  
付け講師を務める。

取材メモ



の風物詩“曾我どんの傘焼き”が開かれるところです。私も仕事の関係で不用になつた和傘をお届けしますが、勇壮な火祭りは鹿児島らしくいいですね。

立ちの橋で、明治の初めまで番所が立つていたそうです。それで、この市民広場の辺りに番所小路があつたといわれています。日曜日ともなりますと、広場でゲートボールをする人、サイクリングロードをジョギングする年配のご夫婦歩こう会に行くお父さんと子ども達と、にぎやかですね。



以内は電車に乗ってはいけないと  
いうので、清水町から新上橋を渡  
つて通学していました。中之平と  
か、上之平とか、明け暮れ単語帳  
を手にして行き來した青春の町、  
通りなんです、この辺りは。



いろいろ考え方をしようとする時、鹿児島の気概みたいなものを感じながら歩くのがいいですね。例えば、振り付けを頼まれている時でも、あそこでは案外いいアイデアが浮かびます。

それにもう一つ、城山もいいですね。新上橋の方から城山へのぼり、照国神社の方へ出る。どちらかといいますと、これは遠出の一つになるんですが……。

私の好きな散歩道は、鶴丸城跡の  
おほり端、それに私学校辺りの  
あの道です。朝早く、それも日の  
出前にあそこを散歩していると、

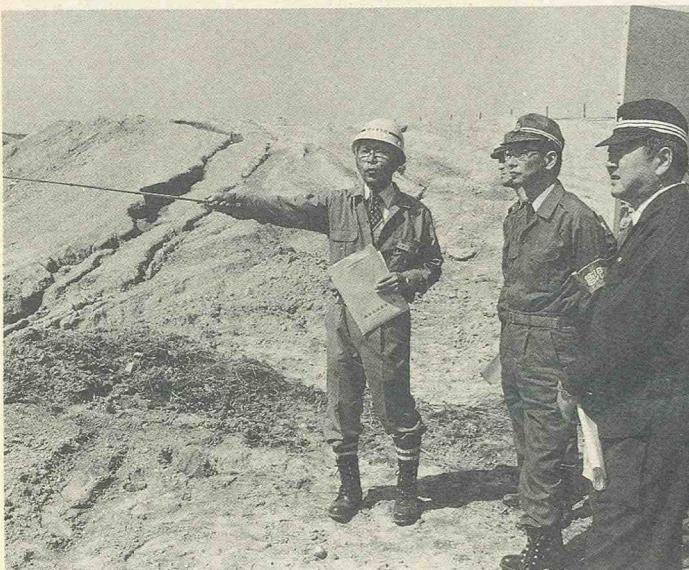
古きよき鹿児島を  
しのぶ道

串木野養護学校教諭 永田明子

# わたしの散歩道

## 4月30日・五代友厚像の除幕式

五代友厚像は長田陸橋横から新装なった泉公園に移設され、山之口市長や石井真一商工会議所副会頭など関係者の出席の下、その除幕式が行われました。



## 5月8日・永井助役など災害危険個所を防災点検

梅雨シーズンを控え、永井助役など市の幹部が星ヶ峯ニュータウンや桜島地区など、災害危険個所の防災点検を行いました。

## 5月19日・ミス鹿児島、夏のユニフォームを披露

ミス鹿児島の3人は夏のユニフォームが出来上ったのを機に市長を訪問し、披露しました。白地に紺の縁取りがされ、モダンで清潔感にあふれるものです。

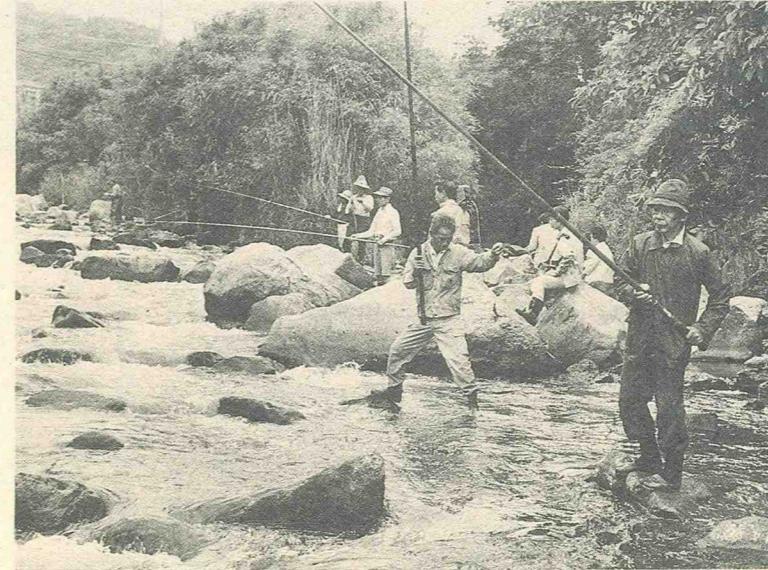
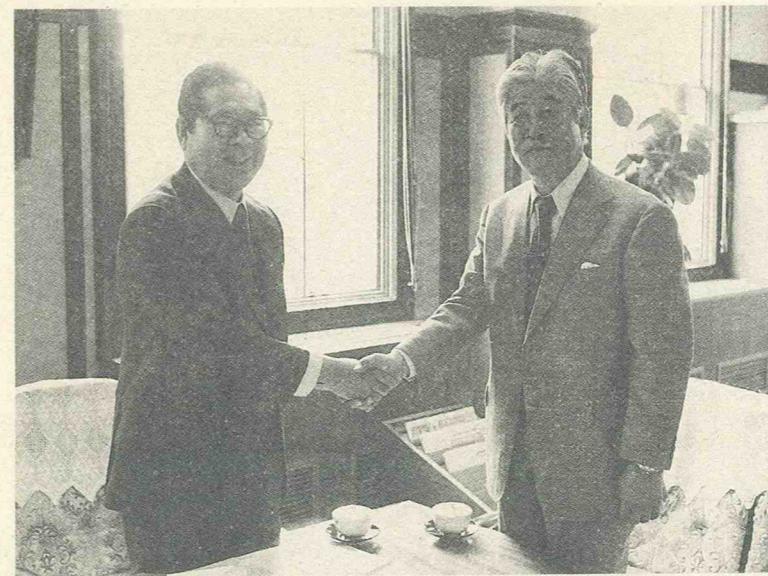


## 5月20日国際障害者年キャンペーンキャラバン隊、市長にメッセージを伝達

国際障害者年を呼びかける鹿県キャンペーンキャラバン隊一行は、市役所玄関前で山之口市長に総理大臣からのメッセージを手渡しました。

## 5月20日・近鉄の西本監督、市長を表敬訪問

昭和20年頃、中国大陆で一緒だった戦友、近鉄の西本監督が市長を訪問し、30年前の中国に思いをはせながら旧交を温めました。



## 6月1日・アユ解禁

甲突川では午前5時の解禁時間をお過ぎると、アユ好き太公望たちが糸を垂れ、時たつのも忘れ、釣りの醍醐味を楽しんでいました。



## 7月3日・市電初の冷房電車の試乗会

暑い夏に快適に乗車していただくため2台を冷房化。その試乗会が市役所前で行われ、森万里子ちゃん(名山小3年)から久保光徳運転手に花束が贈られました。

# あの店

中茶屋  
なかんちやや

平川町

国道二二五号を川辺峠に向かって歩く。道のりは四・五キロ。

自動車がエンジンの音もあえぎながら、傍らを通り抜けて行く。昔の人々は、夏木立ちの中のふみ分け道を悪戦苦闘しながら、この峠を登つた。

「疲れやしたるが、早よ、茶でん

飲みやんせ」と、昔ながらのもてなしがうれしい。

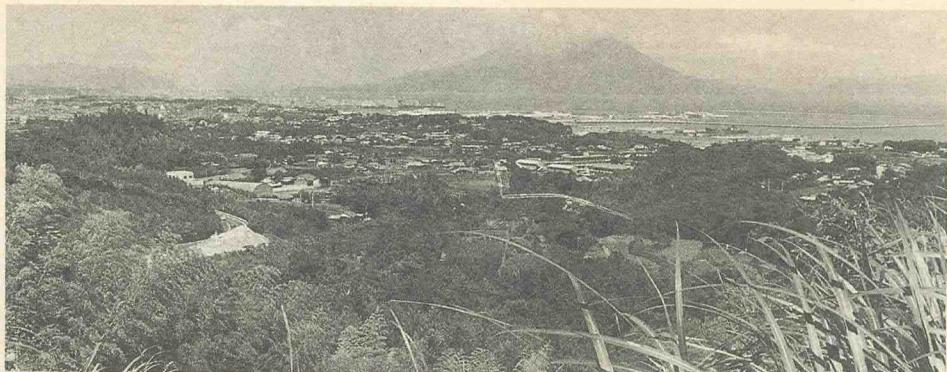
さっそく、自慢の手打ちそばを

食べる。味全体が素朴だ。そば粉が口の中に広がるのがわかる。自然そのものなのだろう。聞けば、そ

ばも具の野菜天も自家製とのこと。そばを食べ、店の前の道路から錦江湾を望む。吹く風は、はや秋の気配だった。



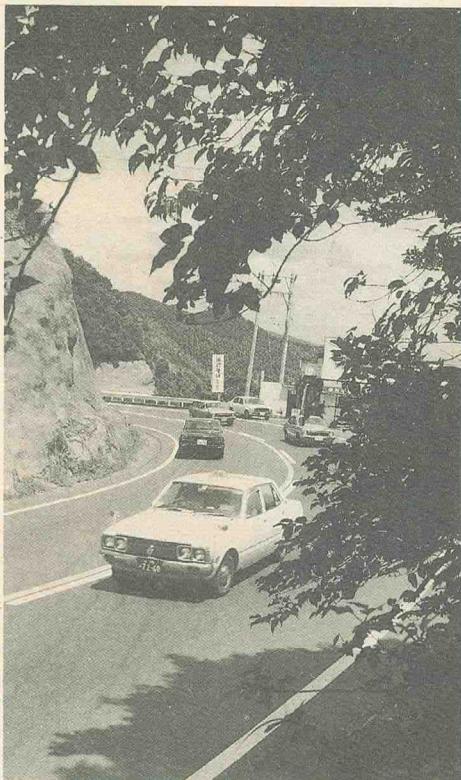
五代目の主人、創業は江戸末期。



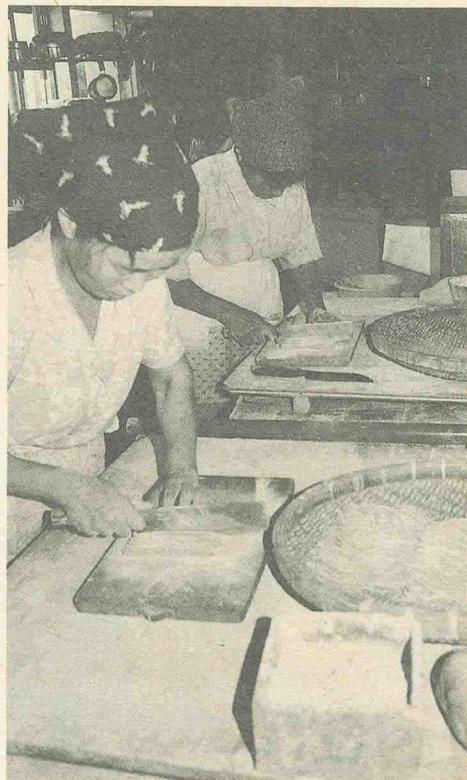
峠には秋の気配が……



ドライブの途中の家族連れが多い。



峠越えにも隔世の感。



ソバの香りがなつかしい。

▼「市民フォト鹿児島」第6号をお届けします。  
◆夏休みも終わり、はや二学期も始まつたところですが、夏休みの一目、あるアスレチック場に遊んだ。ズボンのお尻を真っ黒にしてすべり台をする子、転んでひざ小僧をすりむき、ベソをかく子、おそるおそる丸太を渡る子。もやしつ子が増えたといわれる今日、太陽をいっぱいに浴びて遊ぶ子どもたちの姿を見たのは実際に楽しい思ひがした。

▼現在、ほとんどの都市ではダイヤルを回しさえすれば、電話で天気予報を聞くことができる。この電話予報が開設されたのは昭和二十九年九月一日、東京のこと。最初はわずか二十五回線で、これに利用者が殺到し、五分に一回の割でヒューズがとんだという。ちなみに、現在の鹿児島エリアのお天気ダイヤル一七七番は二百五十回線で、一日の利用回数は五千回(推計)にものぼるそうです。



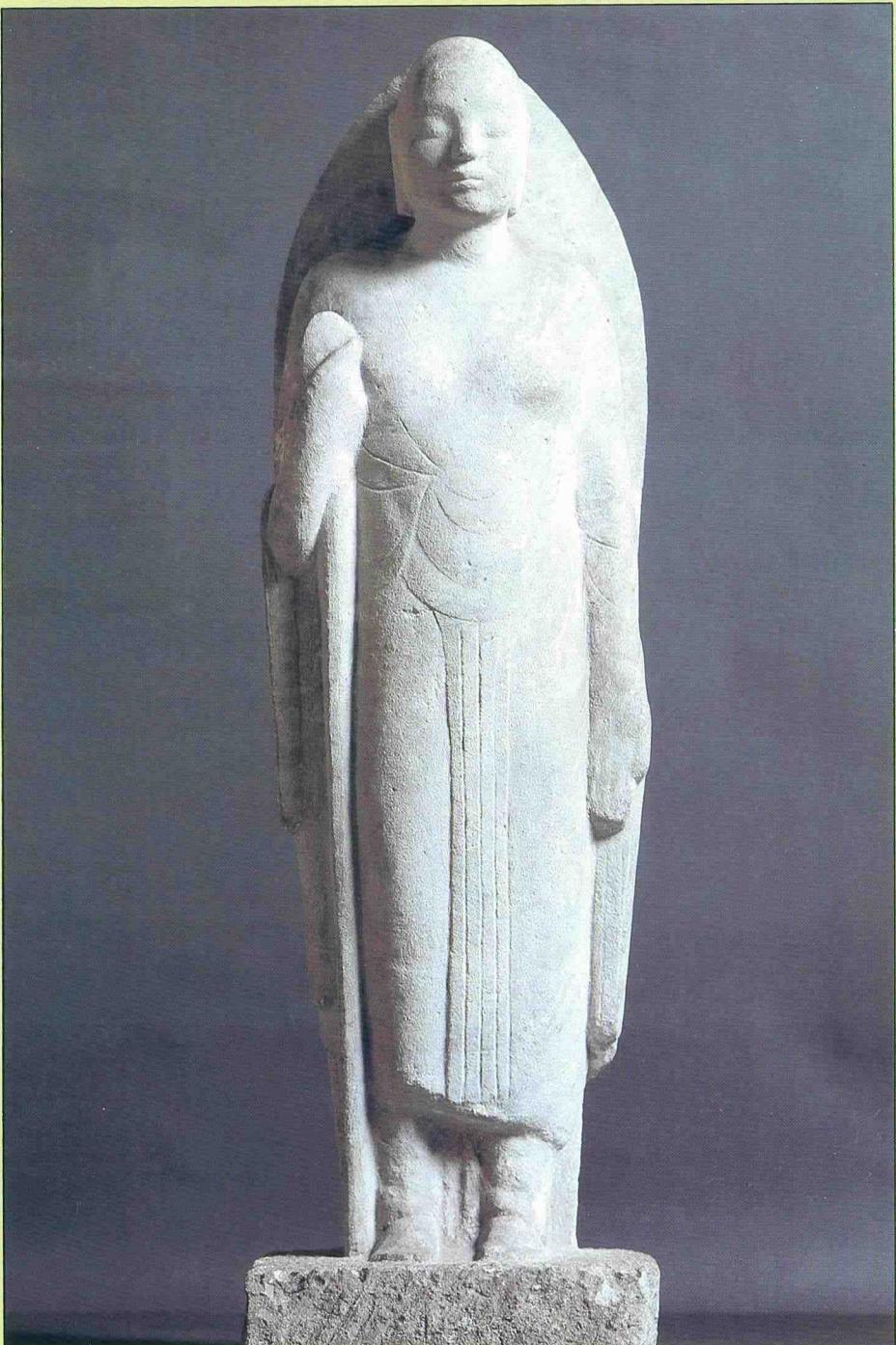
## 市立美術館

地  
藏  
尊

照

（作者）明治二十五年、鹿児島市生まれ。東京美術学校在学中、第三回帝展入選、以来、特選を重ね大正十五年、第一回帝国美術院賞を得、彫刻界に旋風を巻き起こした。昭和初期、塊人社を結成、

本質的な造型性の追求に進む。昭和二十年五月、空襲で東京都渋谷区の自邸で死去、享年五十四歳。忠犬ハチ公や西郷隆盛銅像は全国的に有名。



（解説）高さ約七十五センチ、砂岩を刻んだこの小品は、表面的写実を捨て、本質的な造型性を追求する安藤芸術の一表現として、本館の収蔵作品中に異彩を放つ。制作年代は明確でないが、わりあい後期の作と思われる。

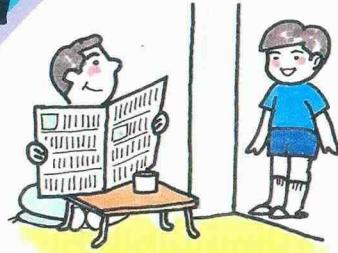
われわれの頭に浮ぶ常識的なお地藏さまとは大部違い、頭部が小さく、いわゆる八頭身型で、特に側面から見た全身の形が流れるようく美しい。単純化された光背を背負った伏し目勝ちの柔軟な顔立ちは、冥想しつつ、黙然とたたずむ野の聖賢といった感じである。大きめの杖を抱え込むようにした右手も珍しく、あるかなきかに線刻された衣紋がこの像の清浄感を一層際立たせている。光線の当て方ひとつで、まだまだ多くの表情を引き出せそうな、不思議な魅力を秘めた愛すべき作品である。

市立美術館  
館長 四 藏 典 夫



# あいさつは心のかけ橋

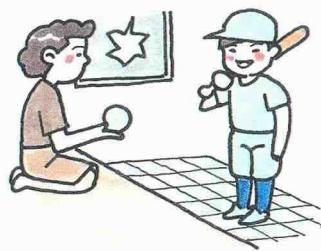
## レインボーボー運動 あいさつの虹を



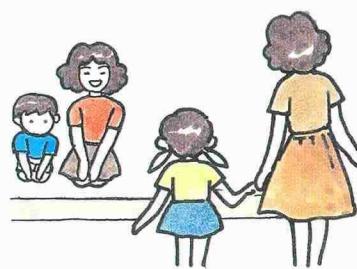
②「ハイ」という素直な心



③「ありがとう」という感謝の心



⑤「すみません」という反省の心



⑥「いらっしゃいませ」という歓迎の心



①「おはよう」という明るい心



④「ごくろうさま」といういたわりの心



⑦「おかげさまで・失礼しました」という謙虚な心

